

平成24年9月23日
今週のベストショット



雁レクD 奈多フェニックス 対 三苦ホーネッツ戦

1点差に迫られた五回裏、ホームを陥れるホーネッツ主将・塚巖生選手の迫力あるスライディング！

(写真：三苦三球会 中村元)

雁レクD ホーネッツが意地を見せ、首位フェニックスを破る！

奈多フェニックス (11勝2敗0分) 10003 4 池見●-実延(新)

三苦ホーネッツ (10勝2敗1分) 30111 6 井手○、矢野-松尾

HR：広木(三苦ホ) 3BH：西藤(奈多フ) 2BH：今林(英)、西藤(奈多フ)

この試合に勝てば優勝が決まる奈多フェニックスと、毎年優勝争いに絡む強豪三苦ホーネッツとの一戦は初回から動いた。先攻のフェニックスは、先頭打者の西藤選手が二塁打で出塁すると4番今林(英)選手の適時打で幸先良く1点を先制。しかし、その裏ホーネッツもランナー2人を置いて4番広木選手のレフトオーバーの豪快な3ランホームランで逆転。ホーネッツはその後も、相手のエラー等に乗じて三回、四回に1点ずつ追加。リードを4点に広げた。一方、ホーネッツ先発の井手投手に要所要所を抑えられ反撃の糸口を掴めないままだったフェニックス打線は、五回表相手エラーで得たチャンスに西藤選手がタイムリー三塁打を放ちようやく1点を返す。さらに代わった矢野投手から、4番今林(英)選手のタイムリー等で2点を追加し、ついに1点差まで詰め寄った。五回裏の試合終了時間が迫る中、六回の攻撃に繋がったフェニックスであったが、焦りからか守備が乱れダメ押しの1点を奪われたところで時間切れ。6-4でホーネッツの勝利となった。優勝を決めたかったフェニックスにとっては残念な結果となったが、昨年同様に最終節まで優勝争いが続くこの状況は、我々にとっては楽しみでならない。最終戦まで各チームの熱い試合を期待したい。(記事、写真：三苦三球会 中村元)



一回表 フェニックス 先頭打者の西藤選手が二塁打で出塁。



一回表 4番 今林(英)選手のタイムリーでフェニックスが先制。



一回裏2人の走者を置いてホーネットス4番広木選手の豪快な一発！



ベンチで祝福を受けるホーネットス広木選手。



五回表、フェニックス西藤選手のタイムリー三塁打で反撃開始。



五回表、フェニックス4番今林英二選手、今日2本目のタイムリー。



五回裏、ヒット性の当たりを、フェニックス今林(誠)選手がナイスキャッチ！



好投が光ったホーネットス先発 井手投手。

青松園A 気迫のライナーズ、奈多サンデーズと引き分ける！

奈多サンデーズ (9勝1敗2分) 001030 4 江口△-田中(俊)

雁ノ巣ライナーズ (6勝2敗3分) 103000 4 樽野△-鳥越

HR: 木下(奈多サ) 2BH: 田中(俊)、野田(奈多サ) 宇野、中口(雁ノ巣)

逆転優勝を目指す2位の奈多サンデーズは一回表二死から3番田中俊弘選手がレフト線へ技ありの二塁打を放つも後続が打ち取られ無得点に終わる。一方の雁ノ巣ライナーズは四球のランナーをワイルドピッチ、バントで一死三塁まで進めると、3番樽野選手のレフトへの犠牲フライで先制に成功し、対照的な立ち上がりとなった。勝利をもぎ取りたいサンデーズベンチにやや重い空気が漂い始めた三回表、1番木下選手のバット一閃、ライト頭上を超えるソロHRで同点とすると、チームに活気が蘇る。しかしその裏ライナーズは、1番中口選手が絶妙のバント安打で出塁し、Wプレーを取れた場面でのサンデーズ手痛い2失策でランナーを貯めると5番久保田選手のタイムリー等で3点を追加し、再び試合の主導権を奪い返す。負けられないサンデーズは五回表、4番八島選手のセンター前クリーンヒット等三安打で二度目の同点とし、勝利への執念を頭(あらわ)にした。最終六回表サンデーズは、一死から1番木下選手が四球で出塁し、2番野田選手の送りバントで、全てをクリーンナップに託す。その3番田中選手の打球はレフト線に切れながら伸びていく。あわや勝ち越しかと思われたが、ライナーズ三宅左翼手が背走しながらこれをキャッチ。これで負けが無くなったライナーズは一死からランナーを出すもWプレーに捕られ、見応えのある好ゲームは4-4の引き分けに終わった。

(記事、写真: 塩浜ジャガーズ 高嶺信彦)



試合前、健闘を誓う両チームと監督。



一回表、二死から左翼線に二塁打の田中俊弘選手。



初回のピンチを抑えるライナーズ樽野投手。



一回裏、犠打を決めるライナーズ池内選手。



ピンチにも落ち着いて力投する、サンデーズ江口投手。



迫力満点、三塁線を抜く二塁打を放つ宇野選手。



三回表、同点ソロ本塁打を放ったサンデーズ木下選手。



本塁打後、笑顔の木下選手。次打席でピッチャー強襲打を放つ。



バント安打のライナーズ1番中口選手。



前の打席を踏まえて、宇野選手を抑えた江口投手。



本日2打点、ライナーズ5番久保田選手。



同点へ向けバッターボックスを注視するサンデーズ主力陣。



2安打1四球、ライナーズの若きリードオフマン中口選手。



最終回サヨナラの期待を込めてフルスイング鳥越選手。

奈多グラウンド

新町パイレーツ (10勝2敗0分) 48043 19 吉田○-桐島

ブルーマーリンズ (1勝10敗1分) 00010 1 林●-尾田

HR: 白岩、桐島、大前、安部 (新町パ) 3BH: 升井、白岩 (新町パ) 2BH: 白岩、大前、牟田 (新町パ)

パイレーツは初回、3番白岩選手の3ランホームランと4番桐島選手の連続ホームランで幸先良く4点を先取。二回には打者一巡の猛攻で8点を追加し、一方的な試合展開とする。四回にもパイレーツが4点を追加して迎えた4回裏、ようやくBマーリンズが意地を見せる。ここまでパイレーツ先発吉田投手にパーフェクトに押さえられていたが、2番友野選手がレフト前へチーム初ヒットを放つと、4番尾田選手のセカンド内野安打の間に1点を返す。しかし反撃及ばず、パイレーツが16安打19得点で快勝した。Bマーリンズは守備の乱れなどもあり、林投手を援護することが出来なかった。(記事、写真: レッドサンデーズ 鳥羽晃弘)



四回までパーフェクトピッチング! パイレーツ吉田投手。



ブルーマーリンズ先発の林投手。試練のマウンドになった。



先制スリーランのパイレーツ3番白岩選手のホームラン。



相手守備の乱れを逃さず追加点を挙げるパイレーツ。

レクE

三友クラブ (3勝 9敗0分) 0000000 0 足達●ー谷崎

奈多クラブ (3勝 10敗0分) 100000× 1 吉田○ー赤沢 **HR、3BH、2BH**:なし

一回裏奈多クラブ1番上野選手がしぶとく左前ポテンヒット。2番安倍(慶)選手の送りバントが一塁悪送球を誘い、ランナーが一気にホームインし先制。二回表三友クラブは、一死から5番森野選手が左前、続く6番杉山選手の送りバントで二死二塁と同点に追いつくチャンスだったが後続が倒れた。逆に奈多クラブは7番中島選手、8番高瀬選手の連続ヒット、9番赤沢選手の送りバントで一死二三塁のチャンス。しかし、1番上野選手の犠牲フライを三友クラブ入口左翼手がホームへ好返球タッチアウト。三友クラブはこれ以上離されまいと必死に食い下がる。三、六回にも三友クラブは出塁するが、吉田投手の前に得点を上げることはできなかった。奈多クラブの吉田投手は最後まで踏ん張り3安打完封。投手戦による試合展開で七回フルイニング戦となり、両チームとも1点を争う緊迫した好試合だった。(記事:三苦フレンズ 御手洗文男、写真:肥喜里一征)



完封勝利を挙げた奈多クラブ先発の吉田投手。



三友クラブ先発の足立投手。



二回裏、三遊間の抜ける奈多クラブ中島選手のヒット。



同じく三遊間ヒットで高瀬選手が続く。



二回裏、出るか三友クラブ左翼手選手のレーザービーム!?



左翼手の見事な返球でホームタッチアウト!



三回表、ピッチャーへの内野安打を奪う大坪選手。



四回表、倒れながらも必死にピッチャーゴロに抑える吉田投手。



六回表、二遊間を抜けるヒットを放つ谷崎選手。



六回裏、しぶとく三遊間ヒットで出塁する砂場選手。

第22週編集後記

WSLの皆さん、こんにちは！

9月22日に第16回和白校区親善ソフトボール大会が行われ、シニアは美和台、フリーの部は和白東地区が優勝しました。参加された方々はお疲れ様でした。各チームのユニフォームが入り混じっての試合は、さながらオールスターゲームを見ているかのようで、初参加の私も興奮しました。しかし、昨日の友は今日の敵！ということで、早速9月23日の4試合を振り返りたいと思います。

何といっても注目は、この試合に勝てば優勝の決まる雁レクDの奈多フェニックス対三苦ホーネッツ戦。昨年のフェニックスは最終戦で奈多サンデーズに敗れプレーオフ進出を逃していますから、是が非でも決めたいところ。フェニックスは初回に1点を先制するも、その裏ホーネッツ4番広木選手の3ランで逆転を許すと、試合はホーネッツペース。何とか5回に1点差まで迫るもダメ押しの得点を入れられ6-4でホーネッツが意地の勝利。これでフェニックスは11勝2敗、勝ち点22で全日程終了し、プレーオフか単独優勝が決定。ホーネッツは10勝2敗1分勝ち点21で惜しくも勝ち点1届かず全日程終了し現在暫定2位。フェニックス池見投手の腰痛の具合も心配されます。

青松園Aの奈多サンデーズ対雁ノ巣ライナーズ戦は、前日奈多地区代表のチームメイトが対戦。ライナーズの樽野投手の勝利への気迫が漲る試合展開は、初回のピンチもその気迫で抑え、その裏自らのバットで先制点を演出。追いつきたいサンデーズはその樽野投手も飲みに行っている居酒屋酔いよいの大将1番木下選手の1発で

追いつき逆転のムードが漂うも、その裏その木下選手に上がったフライをエラー。捕っていればランナーが飛び出していたのでWプレーとなり一気にサンデーペースとなっていたかも。しかし流石は前年度優勝チーム、五回表にその木下選手のピッチャー強襲打でチャンスを作ると一気に同点。最終回も二死から3番田中選手のレフト線への打球もあわや勝ち越しと思われたが、ライナーズ三宅左翼手の好捕で4-4の引き分け。審判のジャガーの方が、「レフト（三宅選手）は左利きだから良かったね。右だったら届いてなかったかも」とおっしゃっていました。確かにそうかも。これでサンデーは最終三球会戦に勝てばプレーオフ進出。この試合、木下選手の強襲打を左足に受けた樽野投手にスプレーを持って駆け付けたライナーズ池内監督が手にしていたのは、実はバット滑り止め用スプレーだったというのは笑えました。

奈多グラウンドの新町パイレーツ対ブルーマーリンズ戦は、最近好調のBマーリンズでしたが、今やリーグNo. 1の打撃力という呼び声高いパイレーツ打線には敵わず、19-1。パイレーツは8番大前選手、9番安部選手にもHRが飛び出すなどどこからでも点が取れます。投げてはパイレーツ吉田投手も1失点で10勝目。次回のライナーズ戦勝利で最多勝決定です。さらにパイレーツ自体も次回のライナーズ戦勝利でプレーオフ決定です。

雁レクEの三友クラブ対奈多クラブ戦は、一回裏に挙げた虎の子の1点を吉田投手が守りきり、1-0の最少得点差で奈多クラブが3勝目。75分で七回まで及ぶ試合も珍しいですが、スミ1の試合での勝利もとても珍しいですね。やはり、投手戦は手に汗握る展開で、守備も締まるしいいものです。奈多クラブの勝敗は吉田投手の出席具合に依る所が大きいので、早急に二番手投手の育成、確保が望まれます。

リーグ戦も残り僅かとなり、優勝争いも必死です。首位フェニックスが10勝2敗の勝ち点22ですから、もし現在勝ち点20の奈多サンデー、新町パイレーツ共に、次回引き分けか敗ればフェニックスが単独優勝。逆に最終戦勝利したチームはプレーオフ出場決定です。三つ巴戦は過去にあったのでしょうか？そうになると、日程的に10月28日がプレーオフとなり、和白リーグカップは11月以降に持ち越しですかね。

この混戦は、勝ち点の配分具合（勝利2、引き分け1、負け0）が、このようなドラマティックな演出をしています。つまり、もし勝利が勝ち点3、引き分け1、負け0だったら、実はフェニックスが11勝2敗（勝ち点33）、パイレーツも次回勝ったら11勝2敗（勝ち点33）、奈多サンデーは次回勝っても10勝1敗2分（勝ち点32）ですすでにプレーオフの芽は無かったのです。いや～理系の私にはたまらない展開です。

個人タイトルの行方も気になります。

投手部門では、最多勝は現在フェニックス池見投手とパイレーツ吉田投手が10勝で並んでいますので、次回のパイレーツ戦次第。防御率は吉田投手が完封してもホーネッツ矢野投手を抜くのは難しいか？奪三振は今年も三友クラブ足立投手で決まりでしょう。ただ、奪三振は納会時の個人表彰が無いんですよね、不思議です。勝率はホーネッツ矢野投手が決定していますが、奈多サンデー江口投手が次回勝てば並びます。奪三振率では奪三振1位の足立投手を抑えて、矢野投手が1位。被安打率は、1イニングに打たれる本数の割合でしょうか？パイレーツ吉田投手が1位を守れるか？ライナーズ打線も強敵ですから、大きく順位が変わることもあります。

